

2023年1月1日

代表取締役社長 岩崎美樹

### 2023年年初のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、2022年はオミクロン株が猛威を振るう中、ロシアのウクライナ侵攻、台湾有事の懸念拡大、また32年振りとなる1 \$ 150円台の円安到来と、国内外ともに予測不能の年であったと思います。

私たち TOCOS グループが所属する電子部品業界の2022年は、巣ごもり需要の反動減はあるものの、自動車の電動化や電装化率の向上を背景に電子部品・デバイスの搭載数が増加し、円安での底上げも加わって輸出が好調に推移したことで、JEITA 発表（2022年12月）では海外生産分を含む日系企業の世界生産額は約39兆円、国内生産額は約11兆円で、2年連続の対前年比プラス成長となる見込みです。

2023年には、新たな価値を生み出し経済成長の源泉となるデジタル変革に向けたソリューションサービスでの需要拡大が見込まれることから、日系企業の世界生産額は前年比3%増の約41兆円、国内生産額は前年比3%増の約11.5兆円との見通しとなっています。

このような業界動向の中、今年の私たち TOCOS グループは好調な受注に支えられ、2021年より進めてきた業務効率向上取り組みの成果と円安の追い風もあり、2022年度上期は計画を大きく上回る収益を上げることが出来ました。下期に入り、半導体不足による車載メーカーの減産や中国経済の落ち込みの影響も出てきてはいるものの、総じて良い年でした。

2023年は地政学リスクの懸念、景気の減速、エネルギーコスト・原材料コストの高騰、また為替の変動リスクもあり、先の見通しが難しい環境が継続すると思います。

私たち TOCOS グループは、デジタルトランスフォーメーションを推進し、データ分析活用やワークスタイルの変革と定着により業務効率を向上させ、働きやすい環境作りを目指したいと思えます。

何卒、ステークホルダー様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、本年の皆様及びご家族様のご健勝とご活躍を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。